

国際コンテナ輸送を巡る最近の状況

令和4年3月3日
国土交通省港湾局

国際海上コンテナ輸送の需給逼迫について

背景・経緯

2019年

- ◆ 米中貿易摩擦の影響等による先行き懸念から、新規コンテナ製造量が減少。

2020年前半

- ◆ コロナにより中国における生産活動が縮小し、米国向けのコンテナ荷動きが低迷。
(新規コンテナ製造量も同様に減少)

2020年後半

- ◆ 中国における生産活動が回復、北米等における巣ごもり需要もあいまって、米国向けのコンテナ荷動きが急拡大。
- ◆ LA(ロサンゼルス)/LB(ロングビーチ)港等の北米西海岸の港湾において、コンテナヤードのほか、トラック・鉄道などの内陸輸送に混雑が発生し、貨物の滞留や滞船、船舶の運航遅延が発生。
- ◆ 世界的に海上輸送の需給が逼迫、海上輸送運賃が高騰。

2021年

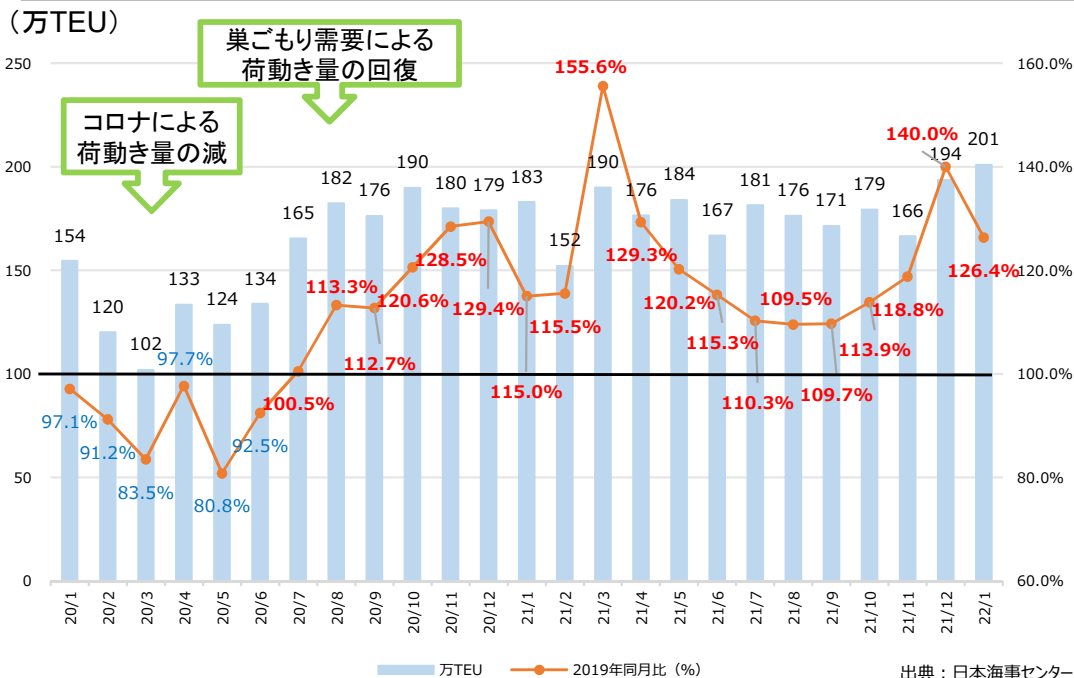
- ◆ 米国向け荷動き量が高止まりする一方、港湾から貨物を運び出すトラックドライバーやシャーシ、倉庫の空きスペースが不足し、貨物が滞留。北米西海岸の港湾において滞船が継続・悪化。世界的な船舶運航遅延も継続。
- ◆ 海上輸送の需給逼迫に伴い、海上輸送運賃が更に上昇。
- ◆ 10月13日、バイデン大統領がLA港の24時間/週7日操業や、Walmart等の荷主に対しコンテナ搬出の夜間時間の活用について要請したことを発表。
- ◆ 10月29日、LA/LB港の両港湾管理者が課徴金の徴収によりターミナル内のコンテナ搬出を促す措置を発表(11月1日より開始予定だったが、延期中)。

現状・今後の見通し

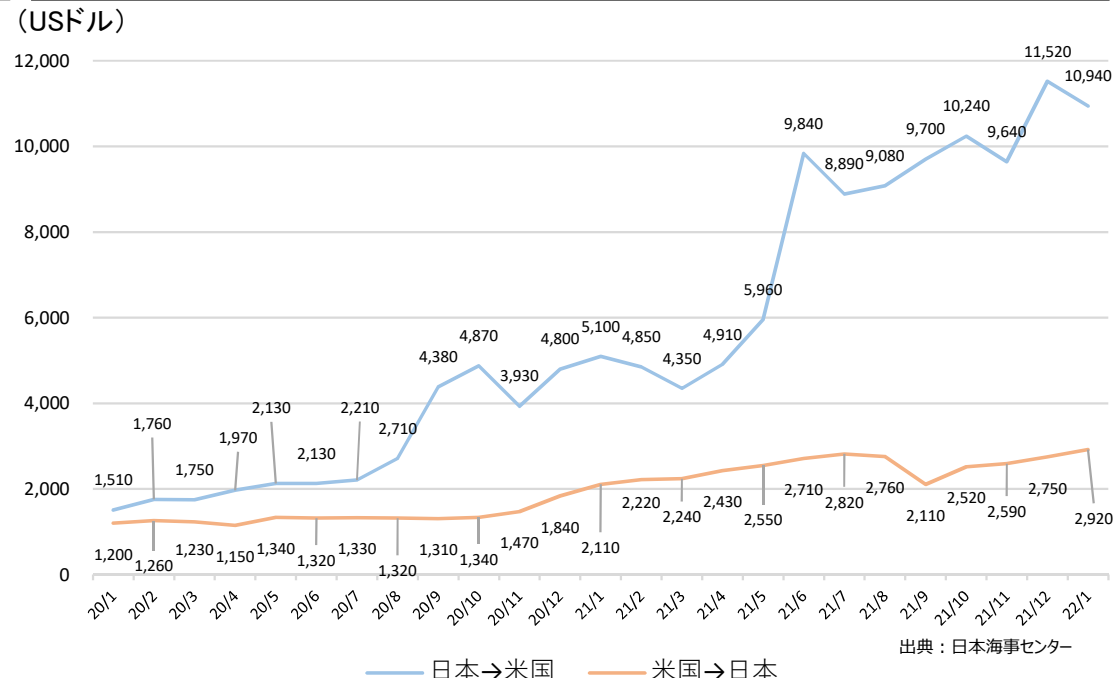
- ◆ 11月以降、LA/LB港における港湾内の長期滞留コンテナの減少等、一部改善の兆しが見られるが、引き続き滞船が生じている。
- ◆ 世界的な船舶運航スケジュールの乱れが正常化するには一定の時間を要すると見られており、夏頃まで全体の状況はそれほど改善しないと予想する関係者もいる。

国際海上コンテナ輸送の需給逼迫について(データ)

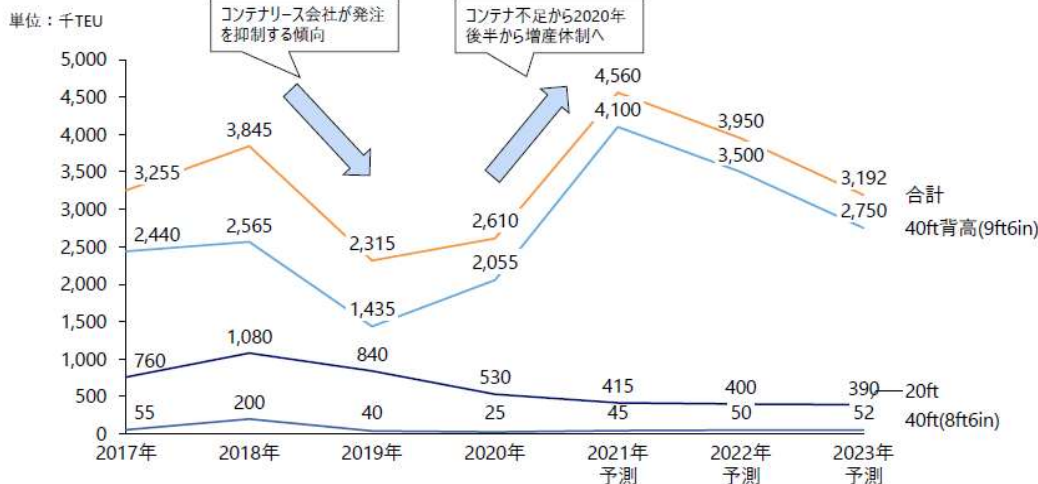
米国航路(アジア18か国⇒米国)月別荷動き量の推移



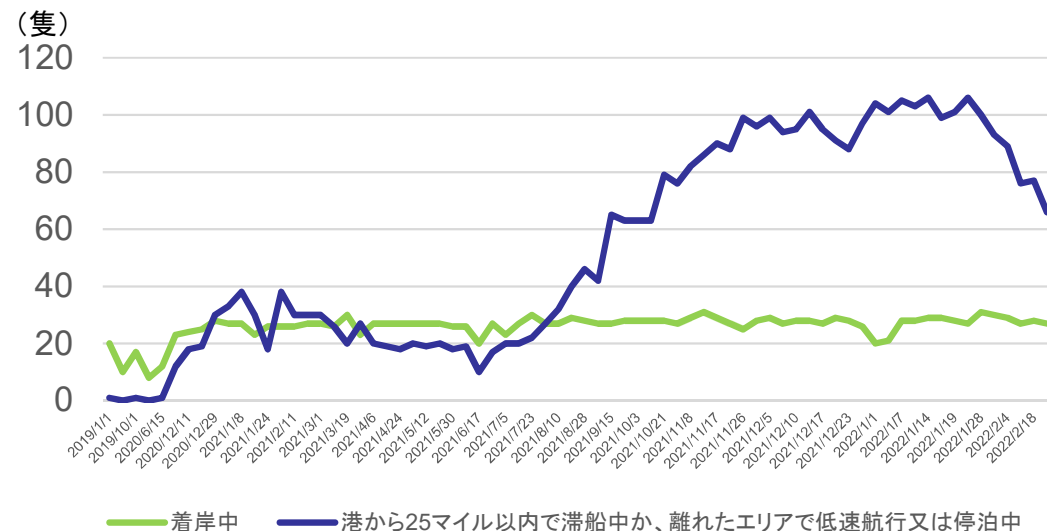
北米航路(横浜⇄ロサンゼルス) コンテナ(40ft)スポット運賃動向



コンテナ生産量の推移



LA/LB港のコンテナ船滞船状況



出所) 世界のコンテナ輸送と航況 2021年版 (日本郵船株式会社 調査グループ) よりNRI作成

出典：野村総合研究所調査資料

出典：Marine Exchange of Southern CaliforniaのFacebookを基に国土交通省が作成

国際海上コンテナ輸送の需給逼迫に係る我が国の対応

● 国際海上コンテナ輸送の需給逼迫への対応に関する協力要請(令和3年2月5日発出)

国土交通省では、世界的な国際海上コンテナ輸送力及び空コンテナの不足を受けて、日本発着の国際海上コンテナ輸送の需給の逼迫状況の改善に向け、荷主、船社及び物流事業者等の関係団体に対し、コンテナの効率的な利用や輸送スペースの確保等に係る協力要請文書を発出

- 荷主等への要請**
- ・コンテナの早期引取・早期返却
 - ・実際の予定を上回る過剰な予約や直前のキャンセルの自粛
 - ・日程上の余裕や経路上の柔軟性のある計画策定 等

- 船社への要請**
- ・臨時船の運航、日本発着貨物へのスペースの割当の確保、コンテナの新規調達増加の検討等
 - ・フリータイム、デマレージ、ディテンション、カット日の適切な運用

● 国際海上コンテナ輸送の需給逼迫問題に関する情報共有会合

- ・ 農林水産省及び経済産業省と共同で、関係者による情報共有のための会合をWEB会議形式で開催。
- ・ 関係者間で現在の状況・取組内容等の情報共有を行うとともに、関係者がそれぞれの取組を連携して実施していくことの重要性を確認。

第1回会合

- ・ 日時：令和3年4月23日（金）14:00~16:00
- ・ 参加者：荷主、船社及び物流事業者等の関係団体、野村総合研究所、国土交通省、農林水産省、経済産業省
- ・ 発表：-総括的な状況説明（野村総合研究所）
-政府における取組（国土交通省）
-民間における取組（関係団体）
- ・ 会議資料：報道発表（以下URL）において公開
https://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000553.html

主な議論

- ・ 船舶の入港が不安定な状況下におけるデマレージやフリータイムの適切かつ柔軟な運用
- ・ 検疫官等の土日祝日の稼働の可能性
- ・ 海上コンテナ運賃の高騰の影響を受ける農産物の輸出事業者に対する補助
- ・ 海上コンテナ運賃に係るマーケットの状況
- ・ 航空輸送に係る情報共有の機会の設定
- ・ コンテナ不足問題のボトルネックの特定と改善に向けた重点的な取組
- ・ 米国西岸港における待機船の状況

第2回会合

- ・ 日時：令和4年1月14日（金）10:00~12:00
- ・ 参加者：荷主、船社及び物流事業者等の関係団体、野村総合研究所、JETRO口サンゼルス事務所、国土交通省、農林水産省、経済産業省
- ・ 発表：-総括的な状況説明（野村総合研究所、JETRO口サンゼルス事務所）
-各業界からの発表（関係団体）
- ・ 会議資料：報道発表（以下URL）において公開
https://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000586.html

主な議論

- ・ 北米西岸港の貨物取扱い状況、滞船状況、労使交渉やコロナの蔓延による労働力不足を踏まえた今後の状況の見通し
- ・ 臨時船の投入、コンテナの追加購入など輸送スペース確保の取組
- ・ コンテナ船に代わる代替的な輸送手段の紹介
- ・ 輸送スケジュールの遅延や海上運賃の高騰などの影響
- ・ 安定的な商品生産・輸送体制の確保のための取組
- ・ コンテナ船のウィークリーサービスの維持

- 会合外の取組**
- ・ 北米西岸港及びアジア主要港の混雑状況や要因、対応等について調査を実施し、関係団体に情報を共有。
 - ・ 随時、荷主、物流事業者、船社等から現状や課題に関するヒアリングや意見交換を実施。
 - ・ 我が国の状況や対応の必要性等について米国側へ伝達し、米国内における貨物の滞留解消に向けた取組を働きかけ。